

令和6年度 第4回 西小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月13日（木） 13時30分から15時30分
- 2 開催場所 西小学校 会議室
- 3 出席委員 中谷 忠司、土屋 雅利、加藤 正寿、山田 悟央、岡野 みの、
平出 慎一郎、福田 達樹、種茂 実予子
- 4 欠席委員 鈴木 将孝、三上 昌子
- 5 オフ・サ・ハ・ー 桐澤 祐貴（県居協働センター）
- 6 学 校 渡辺 浩司（校長）、佐野 尚也（教頭）、高橋 真之（教務・CS担
当）、古田 秀樹（生徒指導主任）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 國年 麻衣子

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、中谷会長より加藤委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

学校経営に関する課題の把握と改善策について

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 西小学校運営協議会の自己評価について
- (3) 令和7年度学校運営基本方針の概要説明

11 会議記録

司会から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があった。全体的に高評価で、児童は基本的な生活習慣が身に付いており、安心して生活していることが伺える。全国学力学習状況調査では、全国平均及び静岡県平均、浜松市平均を上回っており、基礎的な学力の定着が図られていると言える。94%の児童が「安心して学校に通い、楽しい学校生活を送っている」と回答している一方、6%の児童は何らかの不安を感じていることになるため、引き続き一人一人の児童に寄り添い、児童が安心して学校生活を送れるようにしていきたい旨、説明があった。全体的な今後の改善策として、日ごろからの児童理解、いじめ早期発見、「子供が自ら課題解決するための学び方を選択できる単元構想」をテ

ーマとした研修・授業改善、キャリア教育の浸透、情報提供の手段の効果的な活用を挙げた。

学校関係者評価の結果を受けて、教職員で考えた改善策についてグループに分かれて討議し、以下の発言があった。

■ A グループ（中谷会長、山田委員、福田委員、種茂委員）

- ・ 失敗は成功のもと、という体験をさせたい。失敗していい、という意識づけが必要。
- ・ 賞状を渡す機会を増やす、朝の会で1日1人褒めるなど、褒められる機会を増やすと良い。
- ・ タブレットを活用した学習の評価が前年度より下がっており、その理由を知ることが大事。タブレット活用として週1回持ち帰り写真つき日記を提出させるのはどうか。
- ・ 安心して学校に通い楽しい生活を送れていない 6%(22人)に注目しているのは良かった。その子たちのケアを。
- ・ 「こつこつ粘り強く」の保護者アンケート結果が下がっている。児童のどのような姿を見て思っているのか、家庭での様子を知ることができるアンケートがよい。
- ・ 年度途中で目標・改善点の進捗状況はどのようになっているかという確認が必要なのではないか。
- ・ 前年度比を出すと分かりやすい。児童・保護者・教員間での解答の差を考える必要がある。アンケート実施後、再度明確にするためのアンケートは可能か。

■ B グループ（土屋副会長、加藤委員、岡野委員、平出委員）

- ・ 西小のよいところ（生活態度）を生かした教育がされている。
- ・ 児童の評価結果があまりにも高く、保護者の結果が低い。母親から見た現状も知りたいため、運営協議会に母親も入ってもらうのもよいのではないか。
- ・ 友達と一緒にだから頑張れる、など、学校での様子と家での様子のギャップもある。
- ・ 不安・楽しくないな、と感じている子たちへのフォローも必要。
- ・ アンケートに回答できなかった子の数が知りたいため、回答率が必要。
- ・ 学習能力が高いということ以外に、皆の中で生きている（共生）ことを感じられているかなど、もう少し把握していく必要がある。

(2) 西小学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、教頭から、運営協議会の自己評価について報告があった。

- ・ 来年度の目標について、学校が抱える課題をより一層明確にするためには、学校評価アンケートの経年変化を追ったり、児童・保護者・職員三者の間に評価の乖離が見られる項目に注目したりするなど、具体的なアプローチが必要ではないか。（福田委員）
- ・ 評価項目1について、短時間の協議会では十分に意見や思いを出し合うことができな

ったという課題が残っている現状を鑑みると、「熟議」には至っていないのではないかと。
(平出委員)

(3) 令和7年度学校運営基本方針の概要説明

議長の指示により、校長から、来年度の学校運営基本方針について、説明を行った。具体的な内容は来年度の第1回学校運営協議会にて示すものの、第4次浜松市教育総合計画のコンセプトとなっている「描く夢や未来の実現に向けて」を具現化するために、どんなことに取り組んでいく必要があるかの意見を伺いたい。

- ・ 色々な職種の仕事や、色々な人の活躍の様子を見ることが大切である。(土屋委員)
- ・ 子供たちの「あんなことやってみたい」「こんなことやってみたい」という思いをどれだけ教師が引き出すことができるかが重要である。「あんな人になってみたい」と思えるような人材を講師として招き、話を聞けるとよいと思う。(福田委員)
- ・ 夢を叶えた人の話を聞く機会が得られるとよい。「挑戦してみよう」よりも「実験を繰り返そう」という発想でまずやってみることの大切さを伝えていきたい。(平出委員)
- ・ 子供たちがよりたくさんの会話をし、他者とコミュニケーションをとっていくことが大切だと思う。(岡野委員)
- ・ 「こんな人になりたい」「こんな大人にないたい」という思いをもつことも夢をもつことと言えるのではないかと。(種茂委員)
- ・ やりたいことや、好きなことをどうやって見つけるのか？それらの見つけ方を教えてあげてほしい。(山田委員)
- ・ 「好きなもの」がたくさんもてるとよい。(加藤委員)
- ・ できるだけ簡単に分かりやすく子供に話すことが大切。そして失敗をほめてあげるも必要。(中谷委員)

12 その他連絡事項

- ・ 司会より、次回会議は令和7年5月9日(木)午後1時30分より会議室で開催する旨の報告があった。